

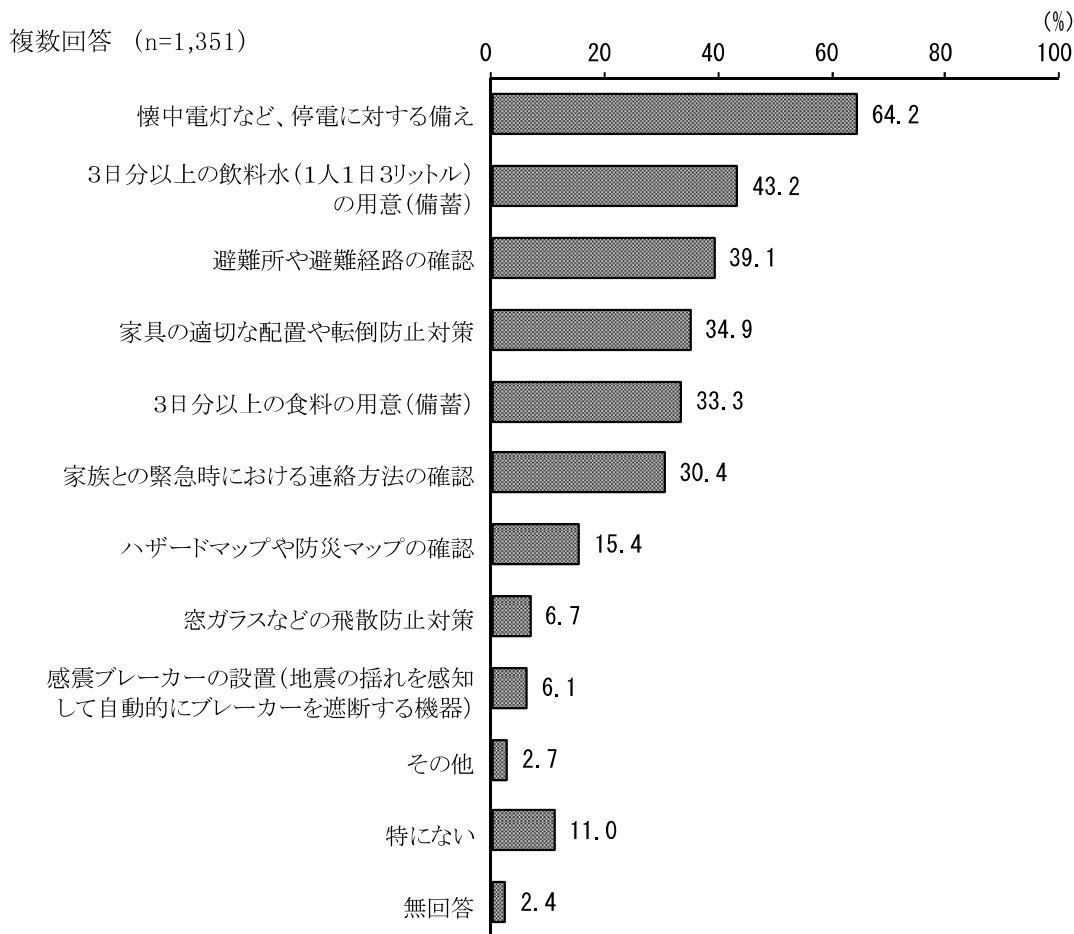
## 5 市民の防災意識について

### 5-1 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組

#### ◎「懐中電灯など、停電に対する備え」が64.2%

問11 現在、大地震などの大規模な災害に備えるため、あなたの家庭内で行っている取組は何ですか。(〇はいくつでも)

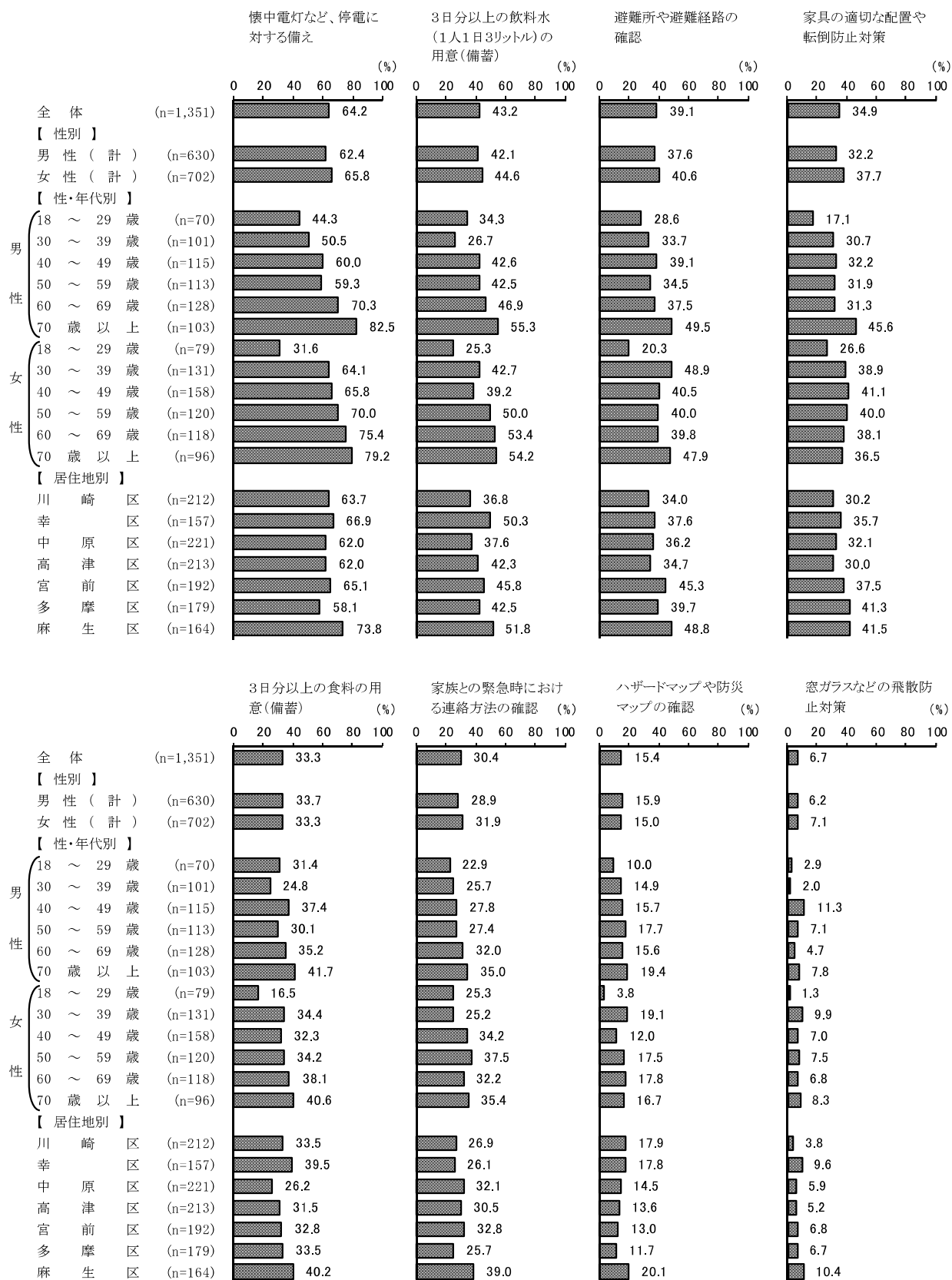
図表5-1 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組



大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組は、「懐中電灯など、停電に対する備え」(64.2%)が最も高く、次いで「3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」(43.2%)、「避難所や避難経路の確認」(39.1%)の順となっている。

図表5-2 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組

(性／年齢別・居住区別、上位8項目)



性／年齢別では、「懐中電灯など、停電に対する備え」は、男女ともに高い年代ほど高くなる傾向で、男女ともに70歳以上（男性：82.5%、女性：79.2%）が高くなっている。

居住区別では、上位8項目すべてで、麻生区で最も高い

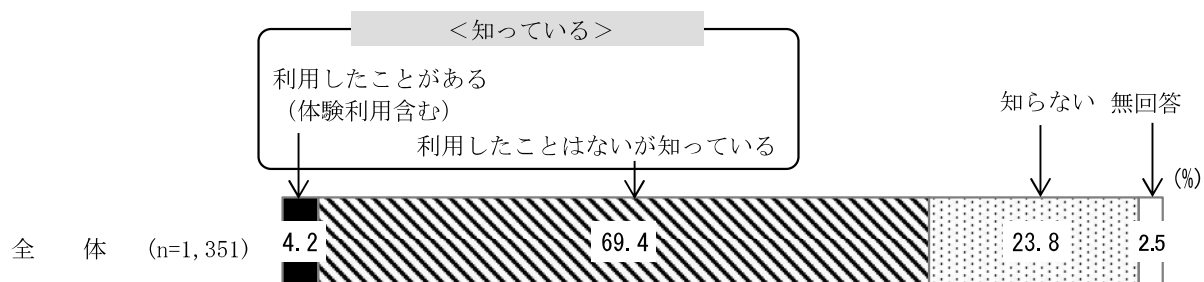
## 5-2 「災害用伝言ダイヤル」の認知・利用経験

◎「知っている」が73.6%、「利用したことがある（体験利用含む）」が4.2%

問12 固定電話や携帯電話等の通信事業者では、災害時に家族や知人との間での安否確認や避難場所の連絡などをスムーズに行うため、次のようなサービスを提供しています。あなたは「災害用伝言ダイヤル」を知っていますか。また、利用したことがありますか。

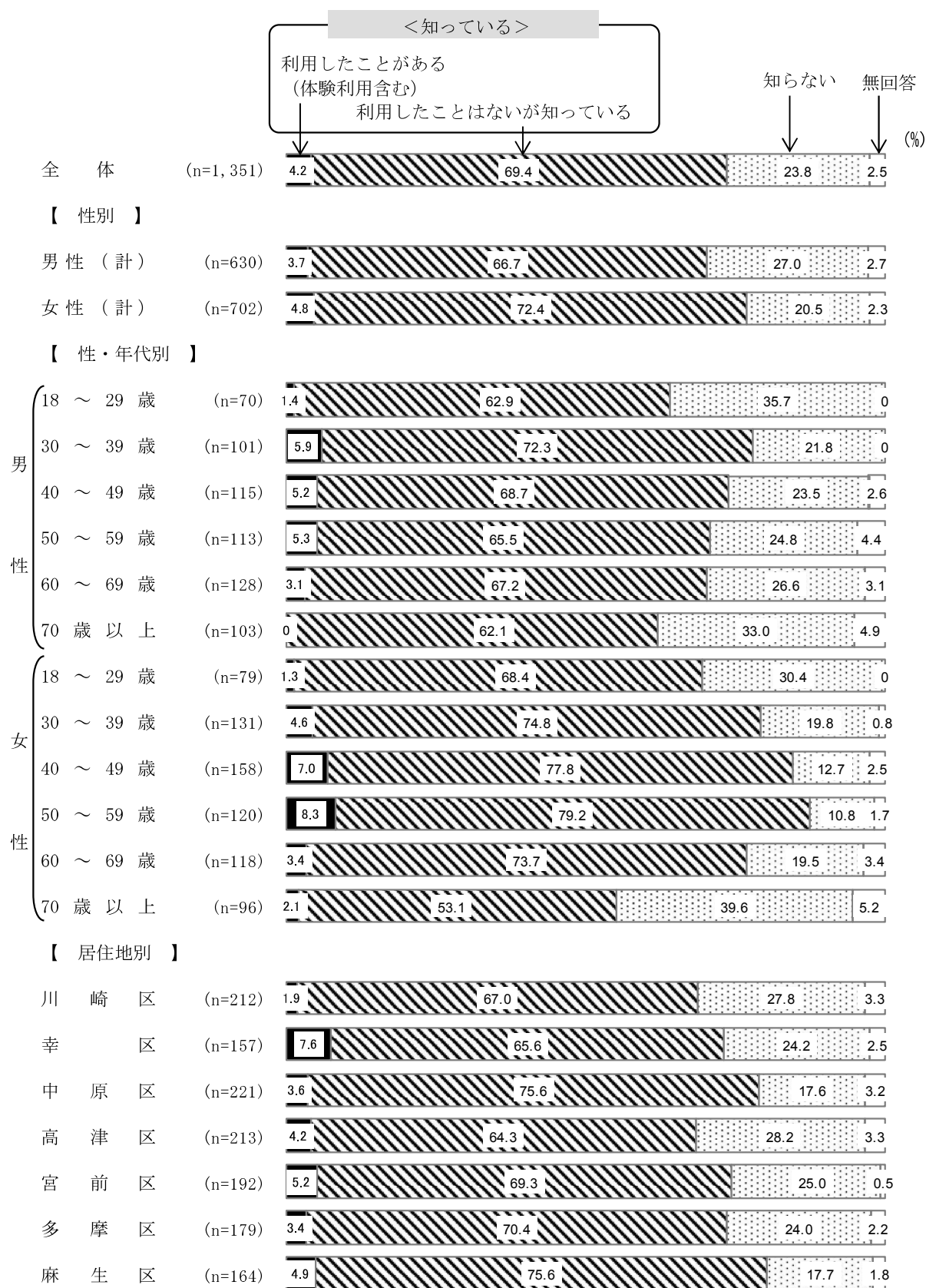
(○は1つ)

図表5-3 「災害用伝言ダイヤル」の認知・利用経験



「災害用伝言ダイヤル」は、「利用したことがある（体験利用含む）」が4.2%、「利用したことはないが知っている」（69.4%）を合わせた「知っている」が73.6%となっている。

図表5-4 「災害用伝言ダイヤル」の認知・利用経験（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、女性、特に40～49歳（84.8%）と50～59歳（87.5%）で、「知っている」の割合が高い。

また、男女とも70歳以上の「知っている」の割合が低い。

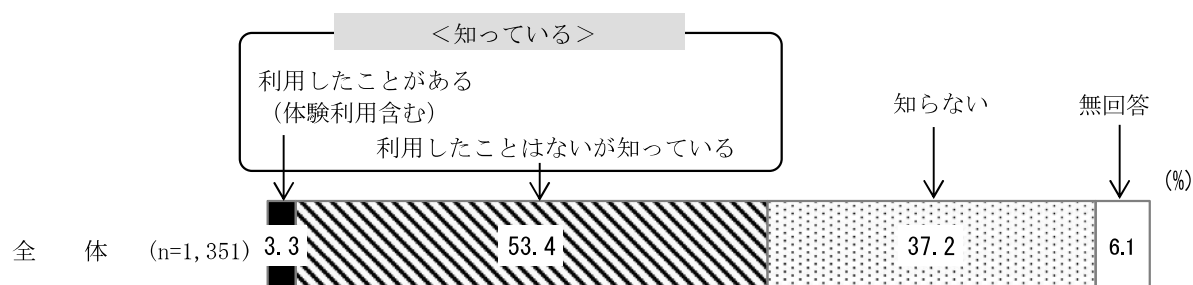
居住区別では、中原区、麻生区で「知っている」の割合が高い。

### 5-3 「災害用伝言版」の認知・利用経験

◎「知っている」が56.7%、「利用したことがある（体験利用含む）」が3.3%

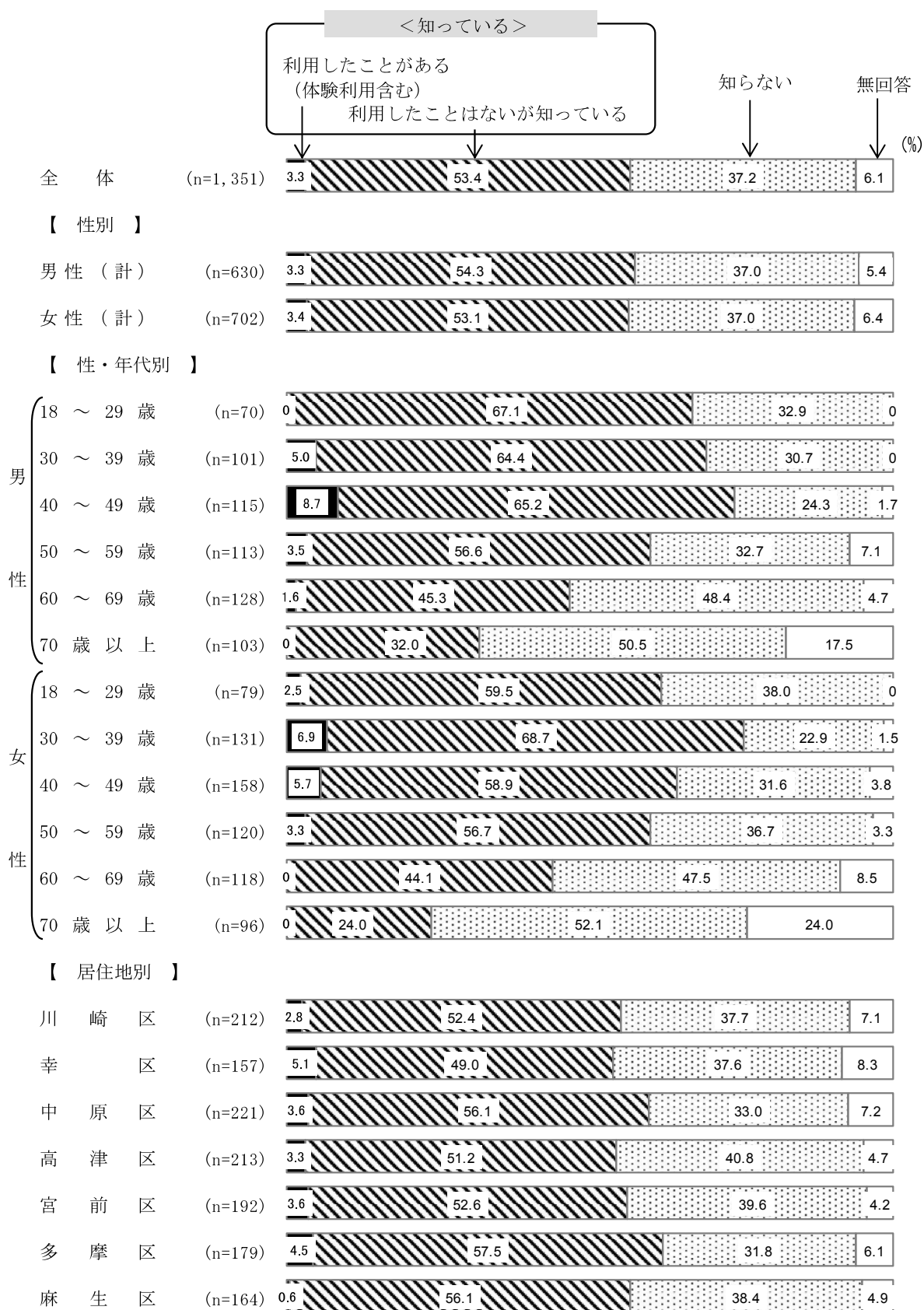
問12 固定電話や携帯電話等の通信事業者では、災害時に家族や知人との間での安否確認や避難場所の連絡などをスムーズに行うため、次のようなサービスを提供しています。あなたは「災害用伝言板」を知っていますか。また、利用したことがありますか。（○は1つ）

図表5-5 「災害用伝言版」の認知・利用経験



「災害用伝言版」は、「利用したことがある（体験利用含む）」が3.3%、「利用したことはないが知っている」（53.4%）を合わせた「知っている」が56.7%となっている。

図表5-6 「災害用伝言版」の認知・利用経験(性/年齢別・居住区別)



性/年齢別では、男女共に、30～39歳と40～49歳で、「知っている」の割合が高い。  
また、男女とも70歳以上の「知っている」の割合が特に低い。

居住区別では、特に目立った点は見られない。

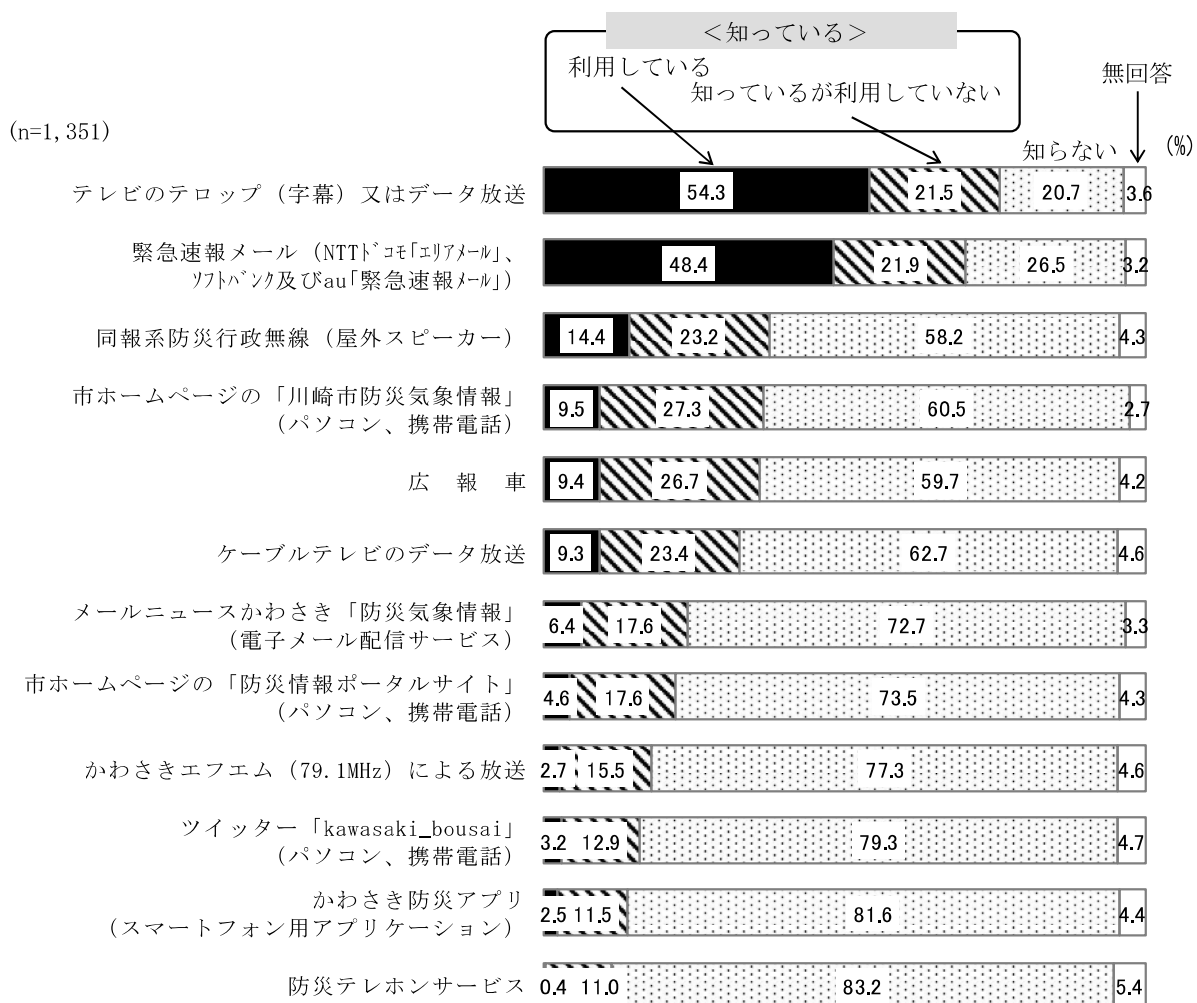
## 5-4 川崎市の災害情報の入手手段の認知・利用経験

### ◎「テレビのテロップ（字幕）又はデータ放送」を

「知っている」が75.8%、「利用したことがある」が54.3%

問13 本市では、災害に関する情報を様々な手段を用いて提供しています。あなたは次の情報入手方法について知っていますか。また、現在利用していますか。（○はそれぞれ1つずつ）

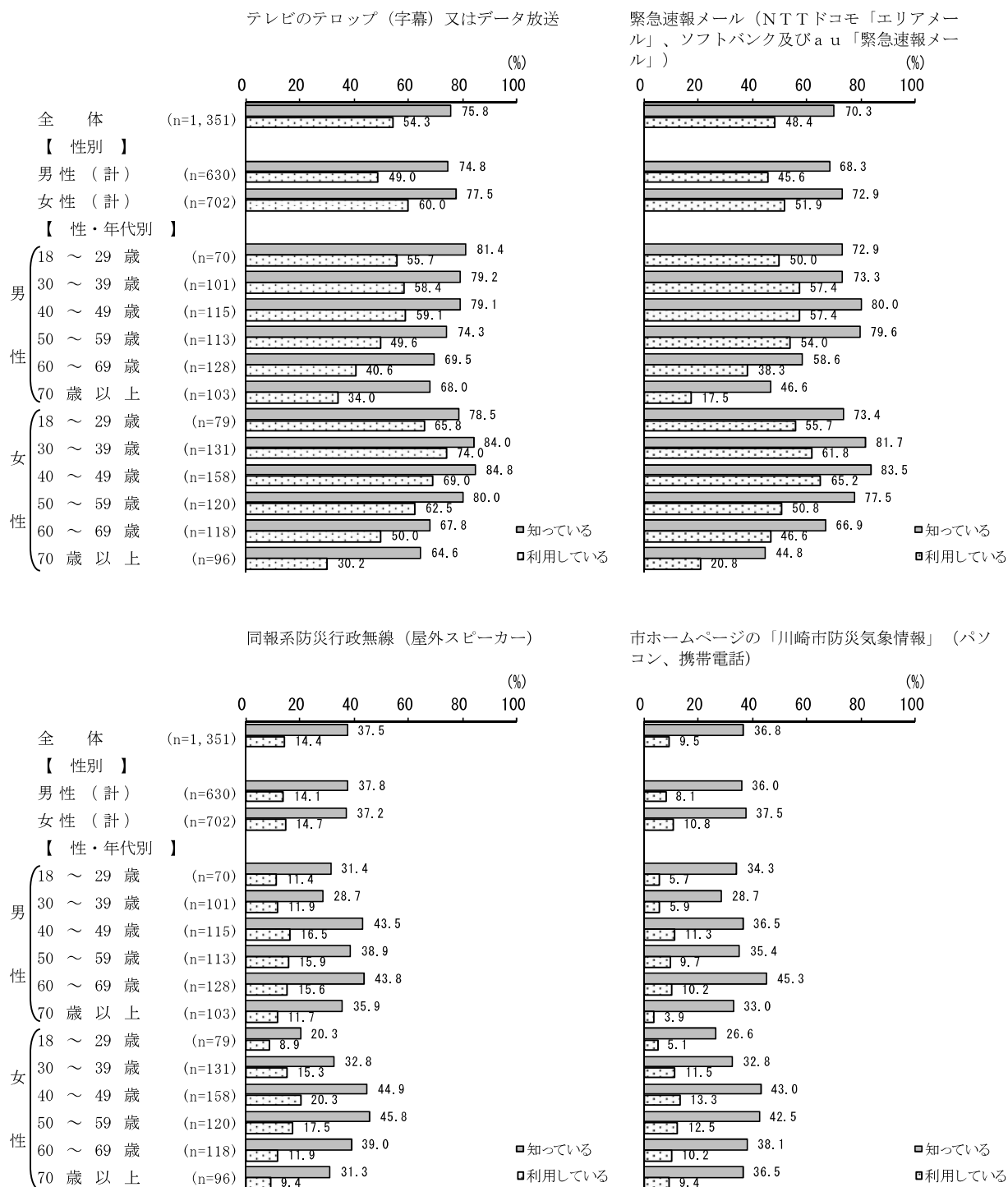
図表5-7 川崎市の災害情報の入手手段の認知・利用経験



川崎市の災害情報の入手手段として、「知っている」では、「テレビのテロップ（字幕）又はデータ放送」（75.8%）が最も高く、次いで「緊急速報メール（NTTドコモ「エリアメール」、ソフトバンク及びau「緊急速報メール」）」（70.3%）、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」（37.5%）となっている。

また、「利用している」でも、「テレビのテロップ（字幕）又はデータ放送」（54.3%）が最も高く、次いで「緊急速報メール（NTTドコモ「エリアメール」、ソフトバンク及びau「緊急速報メール」）」（48.4%）、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」（14.4%）となっている。

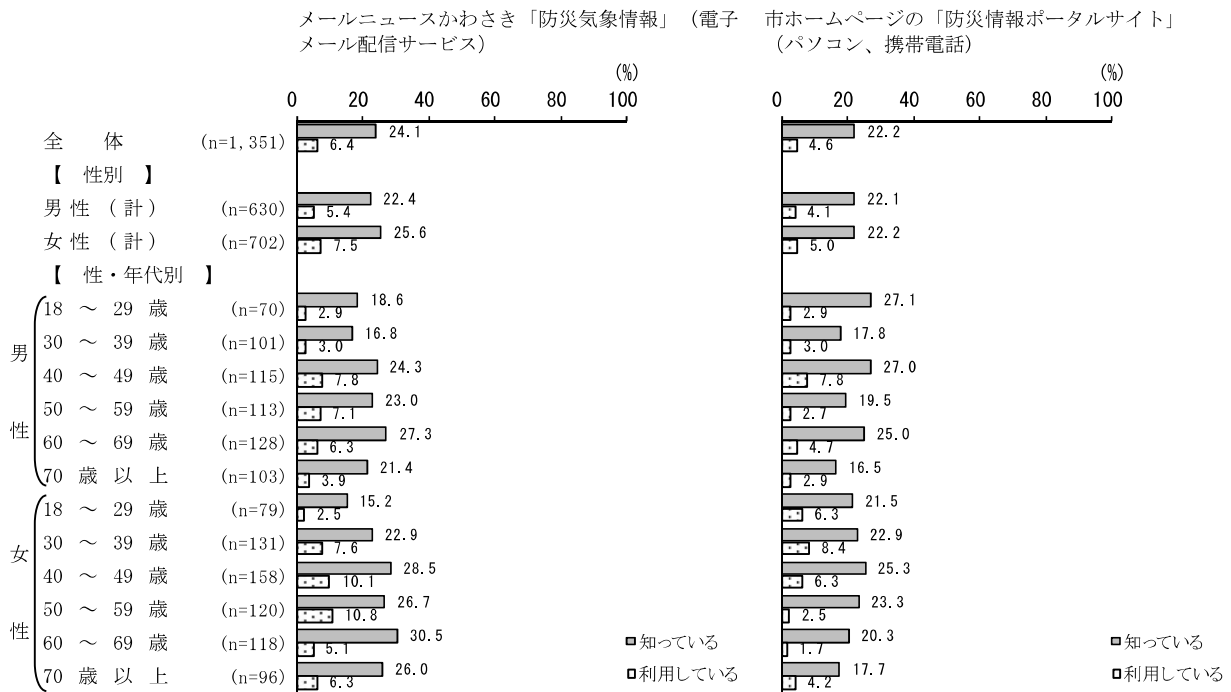
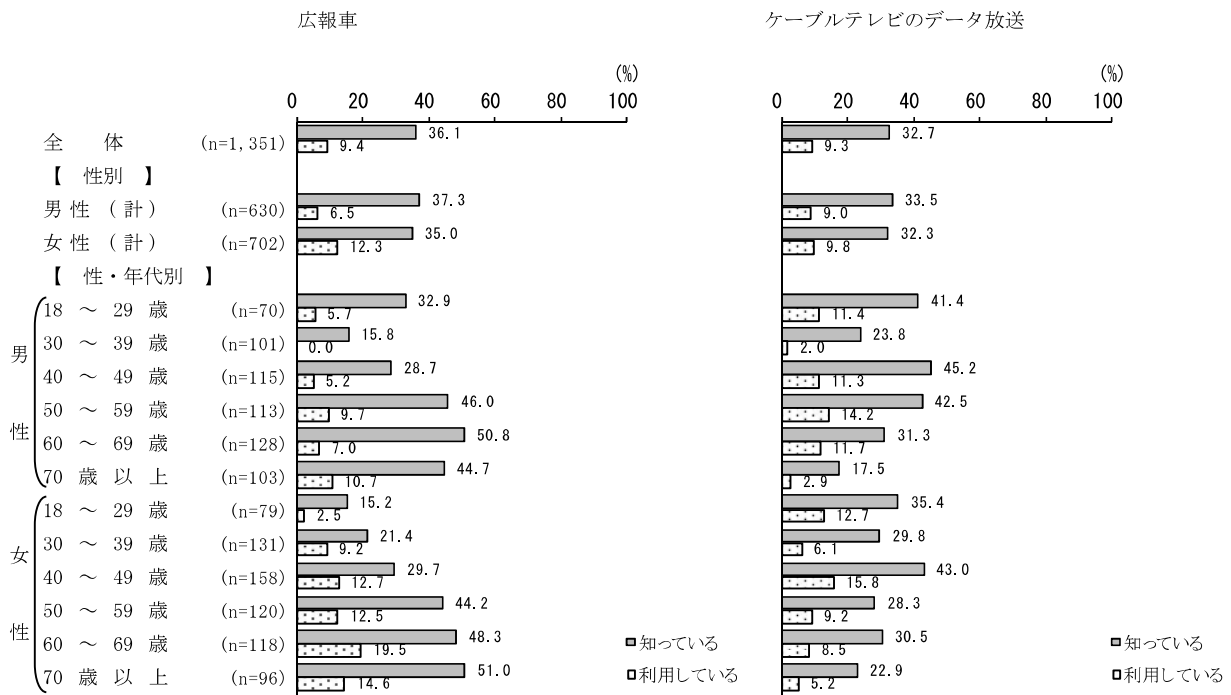
図表5-8 川崎市の災害情報の入手手段の認知・利用経験(性/年齢別、上位8項目)



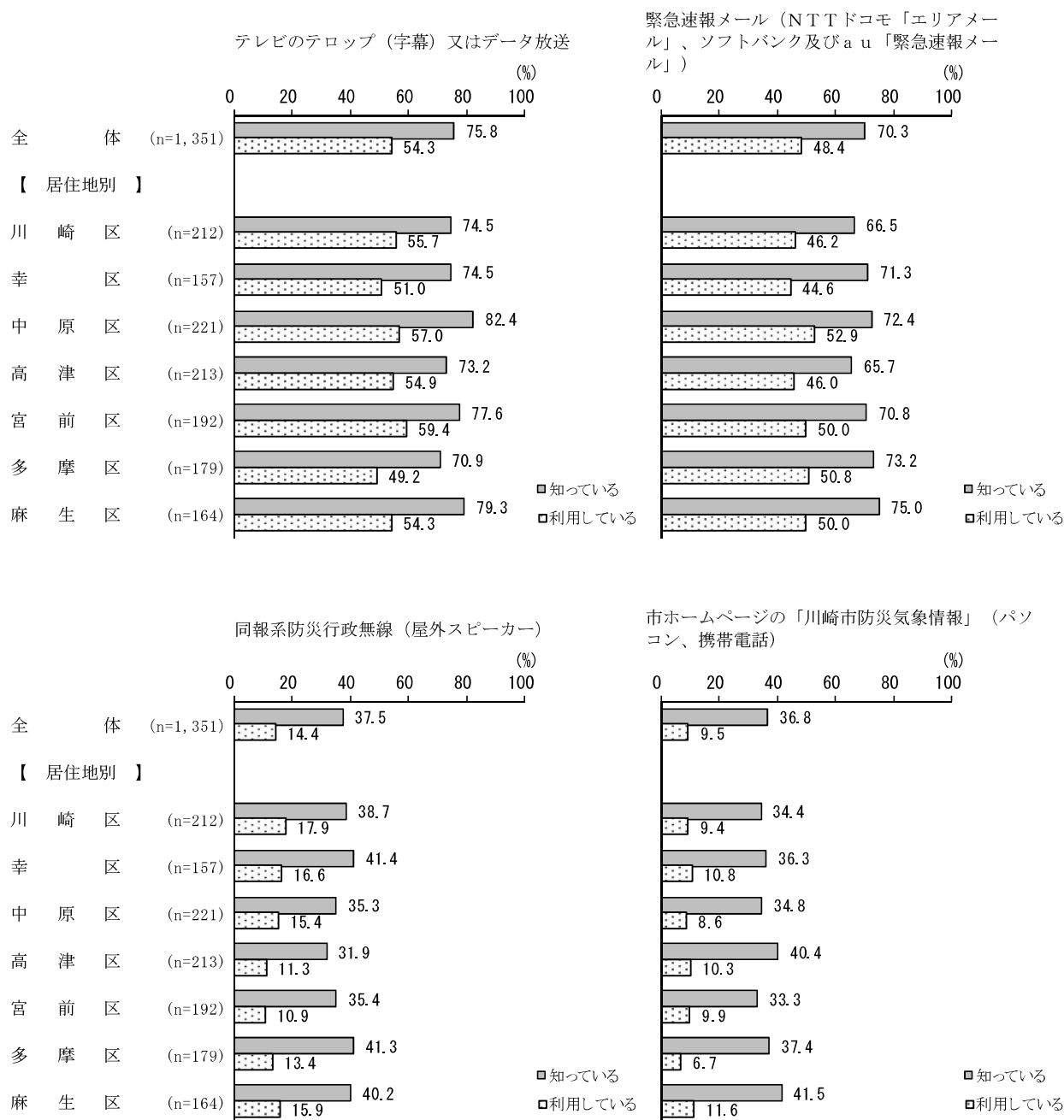
知っている手段を性/年齢別で見ると、「テレビのテロップ(字幕)又はデータ放送」は、女性の30～39歳(84.0%)、40～49歳(84.8%)で高い。「緊急速報メール」は、男性の40～49歳(80.0%)、50～59歳(79.6%)で高く、女性の30～39歳(81.7%)、40～49歳(83.5%)、50～59歳(77.5%)で高い。

利用している手段を性/年齢別で見ると、「テレビのテロップ(字幕)又はデータ放送」は、女性の18～29歳(65.8%)、30～39歳(74.0%)、40～49歳(69.0%)で高い。「緊急速報メール」は、女性の30～39歳(61.8%)、40～49歳(65.2%)で高い。

(第2回アンケート)



図表5-9 川崎市の災害情報の入手手段の認知・利用経験（居住区別、上位8項目）



知っている手段を居住区別で見ると、「テレビのテロップ（字幕）又はデータ放送」は、中原区（82.4％）で高い。

利用している手段を居住区別で見ると、特に目立った点は見られない。

(第2回アンケート)

